

令和3年度第1回
日野市総合教育会議

議事録

日野市企画部企画経営課

令和3年度第1回日野市総合教育会議議事録

日時 令和4年1月21日（金）15時30分～17時20分

場所 市役所4階庁議室

出席者＝大坪市長、高木教育長職務代理者、西田委員、真野委員

事務局＝高橋教育部参事、村田教育部長、山下健康福祉部長、

箕野セーフティネットコールセンター長、岡田企画部長、中村企画経営課長、

山本企画経営課課長補佐、藤田企画経営課主任

登壇 ＝日野第六小学校松永校長、日野第六小学校6年3組児童の皆さん

議事

(1) 開会あいさつ（市長）

(2) 議題

議題第1号 持続可能な社会を構築する力を伸ばす教育環境の実現

日野市におけるSDGsの取組み（資料No.1）

SDGsに関して教育現場でできること（資料No.2-1）

日野第六小学校児童のSDGsに関する発表（資料No.2-2）

日野市子どもの生活実態調査結果、日野市子どもの貧困率の推計結果（資料No.3）

(3) その他

(議事の要旨)

○中村企画経営課長 それでは、皆様お揃いですので総合教育会議を始めさせていただきます。総合教育会議は、市長が招集する会議となっております。議事進行は市長にお願い申し上げます。

○大坪市長 それでは、ただいまから、令和3年度第1回日野市総合教育会議を開会いたします。次第に従い、開会にあたり一言あいさつ申し上げます。

本日はお忙しい中、令和3年度第1回総合教育会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。昨年度来のコロナ禍が象徴しておりますように、世界の状況はめまぐるしく変化を続けております。

子どもたちが、このように先を見通すことが難しい世界を生きていくには、あらゆる変化に対応し、持続可能な社会を構築するための力を伸ばしていく必要があります。

そのために教育がはたしていくことを、まずは、教育委員会と市長部局がそれぞれ把握している情報を共有しながら、意見交換していきたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○大坪市長 それでは、次第に従い、本日の議題に入ります。

始めに、「持続可能な社会を構築する力を伸ばす教育環境の実現」について議題とします。これに関して、市長部局と教育委員会それぞれが取り組んでいること、把握していることの情報共有をしていきます。

まず、事務局から「日野市におけるSDGsの取組みについて」の説明をお願いします。

○中村企画経営課長 それでは、議題第1号大綱の実現に向けた市の取組について、ご説明申し上げます。日野市は2019年(令和元年)7月に、東京では初めてSDGs未来都市に選定されました。

本日は、その日野市で現在実施しているSDGs関連の取組みや、その取組みを通じて日野市が目指している方向性についてご説明いたします。

まず初めに、日野市がSDGs未来都市計画で重視しているポイントについてご説明します。

日野市では、ご覧の通り3つのポイントを重視しながら、取り組んでおります。

①対話を重視したまちづくりの推進②「暮らしの課題とビジネスを結び付けやすく」、③「環境面でも地域内の循環を重視」です。

この中で、本日は主に①対話を重視したまちづくりの推進についてご説明します。

豊田駅近接の多摩平団地(現:多摩平の森)では、高齢化等に代表される大規模団地の環境変化にいち早く対応するために、平成8年から住民とUR、日野市の三者の対話の場「三者勉強会」で、話し合いと合意によるまちづくりを20年以上継続しています。

こうした“対話によるまちづくり”を継承し、平成27年にはオープンな官民連携の場として「産業連携センターPlanT」を多摩平エリアに開設するなど、連携の基盤整備に取り組んできました。

今後、急激な高齢化といった人口構造変化や社会環境の変化への対応をふまえながら、住民、行政、企業などによる対話を地域全体に広げるとともに、新しい価値を生み出す場として地域を進化させることが課題となっております。

続いて、社会環境変化の一例として、東京都の人口の推移についてご説明します。この図は、平成27年の国勢調査をもとに作成した、東京都における人口増減の勢力図となっており、地図上で赤い色の自治体は人口が増加

しており、青い色の自治体は人口が減少していることを表しております。ここでは、東京でもすでに人口減少が始まっていることが読み取れます。

特別区は赤い色(=人口増)が多く、西側の多摩地域は青い色(=人口減)が多い状況で、多摩地域全体では2万9千人ほど人口が増加しておりますが、市町村別に見て参りますと、人口が減少している自治体が多く見受けられます。日野市はこの図の時点では人口微増という状況でした。

さらに、コロナ禍によって東京都の人口動態も大きな影響を受けており、全体として人口減少局面へ入る時期が早まったと言われております。

次のページに参ります。大きな社会環境変化の例として「日野市のSDGs取組み中マップ」に様々な課題が示されておりますが、例えば、円環上部の「社会面の課題」にある2025年問題と呼ばれる課題がございます。これは、2025年には団塊の世代800万人全員が75歳以上(後期高齢者)となり、それに伴って医療、介護費の増加、それに伴う現役世代の負担増というところが懸念されるものとなっております。

また、若年人口の減少、老朽化するインフラなどは、学校教育の現場や子どもを取り巻く環境に直接影響する部分でもあります。

円環左下:「環境面の課題」については、プラスチックごみの増加、二酸化炭素排出量など、自分自身に関わることとして認知度はあがってきていますが、行動に移すことが難しい問題です。しかしながら、ひとりひとりの個人としても、社会全体の仕組みとしても、一刻も早く対処していかなければならない課題として、存在しています。

このように、現在すでに目の前にある課題、将来起こりうる課題を含め、日野市を取り巻く社会環境には様々な変化が起り、相互に複雑に関連した課題が存在しています。

そうした課題に対処すべく、日野市ではSDGsの考え方をいながら、少しずつではありますが取組みを進めております。

このようなポイントを意識した取組み事例として、3点ほどご紹介したいと思います。

はじめに、「持続可能な日野の未来を創る高校生チーム」、通称「ひのミラ」の取組みです。

日野台高校の生徒を中心とした高校生が主体となり、高校生が自分で活動を立ち上げるプラットフォーム。

子どもからご高齢の方までが自由に過ごせる地域コミュニティづくりや、日野に移住者を増やすための調査など、高校生が主体的に学びながら実践する、様々なプロジェクトを立ち上げています。

続いて、日野リビングラボです。この取組みは、日常生活で感じる困りごとを、市民、企業、地域団体、行政、大学などが協力して解決策を考える対話の場となっており、例えば70代~80代の市民の方、男女6名にインタビューを実施し、利用者像を仮定し、1日の生活の中での「うれしいことや困りごと」をよりよくするサービス案を作成し、それに対してさらに意見を伺うなど、対話を重ねながら地域の課題解決や、より暮らしの実現に結び付けようとして取り組んでおります。

続いては、消費意識の変化を後押しということで、環境配慮型パッケージ配布事業をご紹介します。これは、コロナの影響を受けた市内の飲食店の、テイクアウト導入などの業態転換を支援することと、プラスチックごみの削減を両立させるため、非プラスチック素材の容器を配布する取組みとなっております。

次に、レジ袋チャレンジです。日野市では平成20年から、レジ袋の無料配布中止に向けて取り組んでまいりました。

こうした環境に対する市の姿勢、取組みが、R2年7月に全国一斉のレジ袋有料化をきっかけに、環境省が主催したキャンペーンにおいて、みんなで減らそう“レジ袋チャレンジ”で優秀サポーター表彰で優秀賞を令和2年12月に受賞しました。これは市区町村では唯一で、他は都道府県などでございました。

また、プラスチックスマート宣言ということで、日野市の業務、職員の日常生活におけるプラスチックごみゼロ社会に向けた行動規範を定めるとともに、関係企業や団体にも呼び掛けて、地域一体となってプラスチックごみ

の削減を目指すことを宣言。

このように、日野市では、グローバル化、複雑化する社会課題に対して、市民・地域団体・企業・行政・学校など様々な主体どうしの対話や連携によって、課題解決する力を高めつつ、持続可能な取組みを進めてまいります。

○大坪市長 ありがとうございます。これから本格的に未来都市にふさわしい取組みを進めていくということで、現時点での取組みをご紹介いたしました。それでは次に、教育委員会より「小学校におけるSDGsの取組み」について、ご報告をお願いします。

教育部長よろしくお願いたします。

○村田教育部長 ありがとうございます。「小学校におけるSDGsの取組み」について、ご報告差し上げます。これからご説明いただくのは、日野市立第六小学校校長の松永式子（まつながのりこ）先生です。

松永校長先生は、第八小学校に在籍されているときから、児童たちのSDGsへの学習意欲を高め、積極的にSDGsの学習に取り組んでいただいております。そして現在、第六小学校におきましても、更にSDGsへの理解を深められ、学校全体にてSDGsの取組みを推進いただいております。

本日は、こちら本庁舎と日野第六小学校をオンラインで繋ぎまして、小学校からご出演いただきます。また昨年11月に実施されました実践女子大学でのSDGs公開講座にご登壇された代表児童の皆さまにもご出演いただく予定となっております。

それでは松永校長先生、どうぞよろしくお願いたします。

○日野第六小学校松永校長 みなさんこんにちは。日野第六小学校の松永でございます。本日は、日野第六小学校でのSDGsの取組みについてご説明させていただきます。

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに世界で達成すべき17の目標のことです。そして、ESDとは、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や教育活動のことです。

日野市では、2019年から2023年度までの教育ビジョン「日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想第3次日野市学校教育基本構想」を策定し、全ての小中学校で教育活動を実践しています。子どもたちが自ら育んでいってほしい力を「すべての『いのち』が喜びあふれる未来をつくっていく力」とうたっています。

これは「人以外の生き物も含め地球全体のいのち」と私は解釈しているのですが、『取り残さない』持続可能な社会をつくっていくという、SDGsの理念と同じものであると考えています。

ESDの基本的な理念に「環境・経済・社会の統合的な発展」があります。自分たちの原点となる地域を愛し、これからも、人も自然も産業も含めてだれもが住みやすい環境を整えていこうとする意欲と行動力をもたなくてはならないのではないかと思います。

児童は、まず「児童個人」からスタートし、学びのプロセスを経て、最終的には自分が生きている「環境・経済・社会」を統合して理解する力を身に着けていくことが大事です。なぜなら、持続可能な「社会」を創ることを担うのは、今の小中高生だからです。その素地を陶冶していくことは学校教育に与えられた義務だとも思います。

SDGsとESDの構成概念と資質能力を明確化することが大事です。構成概念の中には、多様性、責任制、連帯性、コミュニケーションといった、今、旬の言葉がたくさん入ってきています。それをより具体的にかみ砕き、学習指導の中で育成すべき資質能力・態度として明確化しています。

日野市の小中学校では、ESDカレンダーを作成し、全教育活動の中でSDGsの目標を意識した学習をおこなっています。学習のフィールドを身近な環境から徐々に世界的視野に広げていくように6年間を系統立てるのです。

扱う内容も、自然やまちなど身近なテーマから、徐々に自然環境へ、そして平和や人権、貧困など社会的問題へと広がっていきます。

自分には何ができるかを考える、子どもたちが自分の頭で自分の頭で自分の行動をどうするか考える、これがSDGsの学習の中で一番大切なことだと思います。

これは2年生の防災の学習です。社会福祉協議会の方と、中央大学で防災について学んでいる先生と学生さんに、社会人講師として来校していただきました。ちなみに、中央大学の先生は、六小の元保護者でした。

子どもたちは話を聞くだけでなく、災害が起こった時に、避難所では「自分に何ができるか」「自助」について学習しました。新聞紙でスリッパも作りました。

また、令和4年2月には6年生対象に、市内在住の人類学者の方から、「日本とグリーンランドとの関係から、環境を考える」という講演をしていただく予定です。この先生も、元本校保護者の方です。

このように、地域の外部講師を招き、行政や社会ではどのような行動がなされているのかを教えてもらうことも有効です。

日野市役所の方や、NGOの方などの話を聞くことで、実際に様々な解決方法を工夫してとっていることや、新たな課題が生じたときに、大人たちならどのように解決に取り組むか、という参考例を知ること、小学生である自分は何ができるか、もう少し年齢を重ねたときに何ができるかを考えていくことができます。

このように行動化というゴールから逆算して学びを深めます。

次に、思いや考えを発信したいというところです。子どもの学びは学校の中だけでは十分とは言えません。外の世界を見て、実際に出ていき、関わる中で、外を、社会を変えていくアプローチをする。このように様々なつながり方で学習を進めていくことが理想です。

更に、社会にアプローチするには、積極的に学校から飛び出していこうとする活動力も必要です。それは、自分と社会とのつながりを意識することにつながります。

ここで、日野第六小学校の6年生の取組みについて少し具体的にご紹介したいと思います。令和3年6月に、6年生は国語で「私たちにできること」という学習で、環境問題について学びました。

6年3組の児童は、教科書で学んだことや、そこから発展し自分たちで考えたり、調べてたりしていたら、あることに気が付いたようです。

僕たちだけが知っているのではだめだ、全校生徒に伝えたい、その発信の機会を作ってもらえないか、と校長室に相談にやってきました。

国語で学んだ内容から、自分たちで問題意識をもち、「自分たちだけでなく、周りを巻き込んで環境について考えていきたいです。」「行動していきたいです。」と、子どもたちは熱く訴えかけてきました。これを受けて、私からは、「全校朝会で、オンライン発信をしたらどうですか?」と提案をしました。

Chromebookを使って、環境問題について調べたり、パワーポイントを使ってプレゼンを作ったりするなど、子どもたちは自分からどのような発信の仕方が効果的なのかを考え、アイデアをだし、活動に取り組むエネルギーは凄かったです。Chromebook、従来のパソコン、紙、図書館の本も積極的に活用し、ハイブリッドな学習をしていました。

こういった取組みを通じて、子どもたちの内面はどう変わっていったのか。

最初のきっかけは、国語の教科書だったかもしれません。

世界のどこかで起こっている自分とはあまりかかわりのない事柄を知る、というスタートだったかもしれません。

でも、環境について調べたり、友達と話し合ったりしていく中で、「自分ならどうするか」とか「自分自身や、地域がこれからどのようになっていくと良いか」など自分事として考えるようになりました。そして、それを今度は多くの人に訴えかけようとしたのです。

この行動力はすごいと思います。子どもたちの内面に小さな変化が生じているし、子どもたち自身が、『次の一歩』を踏み出そうとしています。

子どもたちの学びの入り口は一つの目標から良いのですが、ここから、住みよい街づくり、パートナーシップ、多様性、不平等をなくす、など様々な目標について考えることができます。

自分を取り巻く外側、いわゆる「社会」を見たり感じたりする力が育ってきます。そしてそれを友達や家族と話し合ったりしてさらに考えを広げ、深め、行動していくことが大切です。

環境からスタートしたSDGsの勉強ですが、環境問題は、日野市の教育ビジョンがうたっている「すべてのいのちが喜びあふれる未来」をつくるために必要な要因です。

そしてこれをきっかけに、子どもたちが他の目標にも目を向けたり、自分が一番心を揺さぶられる目標について追究したりしてほしいと思います。

学校でできることは、その手を引いてあげたり、道を開くヒントを与えたりすることです。

子どもたちの力を信じて、失敗するかもしれないけれど、できるだけチャンスや機会を与えてあげたいと思っています。

子どもたちは社会の一員として、これからの日本社会を担い、国際的にも活躍していきます。

子どもたちに持続可能な社会づくりを担う、そして生きて働く力をつけていく、その人材育成を担うものとして、これからの学校教育も常に変化に敏感であること、柔軟にチャレンジを続けていくことが必要があると思います。

以上で私からのお話は終わりにいたしますが、本日は、6年3組の子どもたちが校長室に来ておりますので、引き続き、子どもたちの発表をご覧いただければと思います。

(日野第六小学校6年3組の児童の皆さんによる自己紹介)

○日野第六小学校児童 人間がやってしまった環境破壊

さて、このスライドに写っている数(数字)は何だと思えますか。少し考えてみてください。

正解は、なんと、日本人が1年あたりに捨てている食品ロスの量です。

そこで、私たちは食品ロスに興味を持ち、1人あたりが1日に捨てている50グラムの重さのおにぎりの作品を作り、1年生にも興味を持ってもらえるようにしました。

取組みは他にも二つあります。ひとつめは、全校での発表です。食品ロスの減量や、取り組んでほしいことなど、全校児童や先生に呼びかけました。ふたつめは、ほかの地域の市役所が行っていた取組みをアレンジしてつくったゴミ減らし隊の活動です。毎日、準備にかかる時間を計って、準備をする上での課題などを共有するという仕事を行っています。

ゴミ減らし隊の活動を行うことで、いつもより食事の時間を長く確保することに成功しました。私たちは学校での取組みを行っていますが、もちろん家庭での取組みも必要です。したがって、今日の発表を聞いてくださっている皆さんにも協力してもらいたいことがあります。

ひとつめは、わたしたちのように、いつもの食事の時間を少しだけ長めに確保するということです。忙しくて時間がないときでも、少しだけ長めに食事の時間をとることで、食べ残しを少なくすることができると思います。

ふたつめは、スーパーで買い物をするときに、食品を買いすぎないということです。食品が腐ってしまっ捨てることが無いように意識してください。

最後に、自分が軽い気持ちで捨ててしまっている食品が世界的な問題である食品ロスになってしまうということを認識するということです。食品ロスは、一人ひとりの意識で、少なくすることができると思います。これで食品ロスの発表を終わります。

(森林破壊担当自己紹介)

ものを大切にするという点では、森林破壊も同じです。私たちは森林破壊について話します。まず、みなさんは、森林破壊について知っていますか。

森林破壊が進んでしまうと、地球温暖化が進んだり、動物たちが死んでしまったりと、地球に大きな影響を及ぼしてしまうのです。そこでこの現状をなくすため、ぼくたちが実際に取り組んだこととお話しします。

その1、ポスターをつくり学校に貼る。

その2、全校へ発表しました。

森林破壊が起きてしまうとどうなるのかということと、ぼくたちの理想の未来について話しました。例えば菓が作れなくなったりということや、森林破壊をなくして、ぼくたちや動物たちが気持ちよく暮らせたらいいなということを伝えました。

次に、一緒に取り組んでほしいことです。

ここで質問です。皆さんは木からできているものを知っていますか。トイレットペーパーやセロハンテープなどがあります。

そこでお願いです。木からできているものを知っていただきたいです。そうしたら、木からできているものを大切にしてください。それができたら家具などのものを全て大切に。これらのことを意識して生活してくれたらうれしいです。簡単なことなのですが、これを意識すれば、今の森林破壊、それ以外の環境問題もいい方向へ変わっていくと思います。なので、この機会を通して、もともと知っていたという人も、初めて知ったという人も、この発表を聞いて、一緒に取り組んでくれたらうれしいです。これで森林破壊の発表を終わります。

(海洋問題、水質汚染担当自己紹介)

まずは、この画像を見てください。これは、私たち人間が海に捨ててしまったりしたプラスチックごみがウミガメの顔にかかってしまっている様子です。このようにプラスチックなどを海に捨ててしまうと海の魚がエサと間違えて食べてしまったり、顔や体に引っかかってしまったりしています。

そして、浜辺にもプラスチックごみが溜まってしまい、もう海へ入れなくなってしまうかもしれません。

海へ捨ててしまうと、それをまた拾うという大変な作業をしなくてはなりません。

次に、この画像を見てください。これは海外で起きてしまっている水質汚染の様子です。日本も将来このようになってしまうかもしれません。

いま、日本の海はきれいな海から少しずつ汚い海へ変化してしまっています。ここからまたきれいな海を取り戻したいですね。なので私たちは学校内での取組みとして、水道の前に水に関するポスターを貼りました。水を使う水道の前に貼れば、海に関係することに興味を持ってもらえるかなと思ったからです。

そして、海洋問題に関しては、プラスチックの分別など、クラスの人たちに呼び掛けていきたいなと思っています。そうすればプラスチックもリサイクルできて、海に捨てる人も減って、魚やウミガメにも環境にも優しい生活ができるからです。

私たちは、学校内での取組みをしましたが、今聞いてくださっている皆さんにもやってほしいことが3つあります。ひとつめがプラスチックの分別やリサイクルに協力してほしいです。ふたつめはエコバッグ、マイバッグを使って、ビニール袋をあまり使わないようにしてほしいです。みつめは、ポイ捨てをしないことです。ごみは道に捨てるのではなく、持ち帰って家で捨ててくれると嬉しいです。

みなさんはこの画像のものが何かわかりますか。これはマイストローとって、洗えば何度でも使えるストロ

一です。私たちも頑張りますが、プラスチックの数は多いので皆さんの力が必要です。小さなことから一緒に取り組んでもらえると幸いです。

突然ですが、こちらの道路は何でできているか知っていますか。これはオランダの道路で、プラスチックでできている道路です。

また、ごみとして回収されたペットボトルはフレークとなり、私たちの生活にも関わる文房具や衣服、容器として再利用されます。こうすればプラスチックごみの数は減ると思います。これで海洋問題、水質汚染の発表を終わります。

最後にまとめたこととお話します。私たちの話はSDGsとしてまとめて話しましたが、SDGsは自然のことだけではなく、いろんな種類のものがあります。さて、何種類あると思いますか。

実は、17種類もあります。環境だけではなく、経済や社会の取組みもあります。ぼくたちが伝えたいのは、どんな問題にしても、資源やものを大切に、自分たちができることを探して、一人ひとりが意識をして地球を守ろうということです。この発表を通じて、皆さんが少しでも環境のことを気にしてくれると嬉しいです。これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○大坪市長 第六小学校の松永校長先生、そして児童の皆さま、ありがとうございました。

ここまで、日野市全体として進めているSDGsの取組みと、学校教育の現場で実践されている取組みの紹介がありました。自ら課題を見つけ、対話を通じて解決を図ることに重きを置くという点について、両者が同じ方向を向いていることが確認できたのではないかと思います。

ここまでの説明、発表について、質問などがある方がいらっしゃいましたら、挙手の上でご発言をお願いしたく思います。いかがでしょうか。

○高木委員 教育委員の高木です。六小のみなさん発表ありがとうございました。児童のみなさんに伺いたいことがあるのですが、皆さん3グループで発表頂きまして、皆さんは校内でも、こういった内容について発表されたということで校長先生のお話から推測しているんですが、引き続いてもっとやりたいことがあれば教えてほしいんですが、いかがでしょうか。もっとこういうことがやりたい、ということを考えていたら教えてください。遠慮なくどうぞ。

○日野第六小学校児童 少し無謀かもしれないんですけど、もう少し大規模で、テレビやYouTubeで発表したいです。

○高木委員 ありがとうございます。他にはありますか。

○日野第六小学校児童 町の道路にポスターなどを貼りたい。イオンモールでやる予定だったものが中止になってしまったので、その代わりにやりたいです。

○高木委員 ありがとうございます。学校だけでなく、周りの人や市民の方にも広く伝えていきたいということでしょうか。

○日野第六小学校児童 そうです。

○高木委員 ありがとうございます。今日は市長さんもいらっしゃるんですが、市長さんをお願いしたいことは

ありますか。どうぞ遠慮なく。

○日野第六小学校児童 （児童の皆さんで相談して）宿題を減らすことはできますか。

○大坪市長 それは少し難しいかもしれないですね。まずは校長先生にお願いしてみてください。

○高木委員 今、皆さんが発表してくださったテーマに関係する内容ではいかがですか。

○西田委員 SDG s 関連でいかがでしょう。

○日野第六小学校児童 いろいろなところに手紙を出して、いろいろな人に知ってもらいたいです。

○西田委員 ありがとうございます。そういった行動を起こしたいということについてよくわかりました。もっとこういうことを調べたい、探求したいという考えを持っていることはありますか。

○日野第六小学校児童1 家庭の生ごみを肥料にするようなものを日野市全体に広めたいです。

○日野第六小学校児童2 差別や人権、人のメンタルや気持ちのことについて調べたい気持ちがあります。

○日野第六小学校児童3 授業でユニセフの勉強をしたので、環境だけでなく、差別のことなども勉強したいです。

○西田委員 ありがとうございます。

おうちの中で、皆さんがSDG s で勉強したことを話してこんな風が変わった、こんなことをしているということはありませんか。

○日野第六小学校児童1 家でゴミの話をしたら、コンポスターを使ってゴミを減らすようになりました。

○日野第六小学校児童2 売り物も奥にあるものの方が賞味期限が長いのでつい買いたくなってしまいますが、食品ロスの発表を聞いていたこともあったので、手前のものを買うようになりました。

○日野第六小学校児童3 その日に食べるものは、その日が賞味期限のものを買ったりしています。

○西田委員 ありがとうございます。素晴らしい取り組みですね。

○高木委員 皆さんすごく関心も意識も高いと率直に感じました。またいろいろ調べたりして、みんなに教えてください。ありがとうございました。

○日野第六小学校児童 ありがとうございました。

(一同拍手)

○大坪市長 ありがとうございます。ここまでの内容を踏まえて、今度は教育部長に教育委員会の次年度事業についてお話し頂ければと思います。よろしくお願いたします。

○村田教育部長 日野市教育委員会からSDGsの学習についてお話いたします。SDGsの目標4にある「質の高い教育をみんなに」の中には持続可能な開発のための教育、通称ESDが位置づけられております。日野第八小学校は令和元年と令和2年に東京都の教育委員会、持続可能な社会づくりに向けた教育推進校に指定され、学校全体でESDやSDGsの概念を浸透させるための研究を進めました。研究のテーマは持続可能な社会をになう児童の課題解決力の育成、副主題は地域の人、自然、社会とのつながりを通してです。日野第八小学校で2年間研究を進めた研究成果は、日野市立小学校全校と共有されております。令和4年度は日野第八小学校の研究成果をもとに、日野市立小中学校全校でさらにSDGsの学習を進めて参ります。今、配布いたしました資料をご覧ください。令和4年度の教育課程の編成では、日野市立小中学校全校において、SDGsカレンダーを作成いたします。日野市立小中学校全校で作成するこのカレンダーは生活および総合的な学習の時間と各教科等との関連を示し、学習の中で意識するSDGsの目標のアイコンを記載したのになります。真ん中の表をご覧ください。こちらがSDGsカレンダーの見本です。SDGsカレンダーのタテが教科等、横が指導時期となります。SDGsカレンダーは教科等の内容のつながりを線で結び、関連のある内容が一目でわかるようになっております。また、学習の中で意識するSDGsの目標のアイコンを明示することで、学習した内容と、SDGsの目標とのつながりが分かるようになっております。教員はこのカレンダーを作成することで、指導内容とSDGsとの関連を考えながら、教科等の横断的な学びを実践することができるようになります。以上でございます。

○大坪市長 ありがとうございます。それでは次に、「子どもの貧困」について、セーフティネットコールセンターの篠野センター長より説明をお願いします。

○篠野セーフティネットコールセンター長 説明させていただきます。それでは子どもの貧困といたしまして、子どもの生活実態調査、子どもの貧困率の推計結果についてご報告いたします。お配りしております水色のファイルをご参照お願いたします。

子どもの生活実態調査について、①が概要版、②と③が本体部分となる集計結果、自由記述結果、④は参考といたしまして、実際に調査で使用したアンケート結果をつづっております。また、⑤の子どもの貧困率の推計結果につきまして続けてつづっているものになります。また、子どもの生活実態調査、子どもの貧困率の推計については、平成29年度に策定いたしました「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」の見直しの基礎資料にすることを目的として調査を行い、令和3年10月に取りまとめたものでございますが、子どもの貧困対策自体は社会全体で幅広く受け止め、対応していくべきものであるという考えから、市民の方々をはじめ広く社会の関心やご理解を得ることが望ましいため、議会での報告をはじめ、市のホームページでも公開しているところです。それでは、それぞれ順にご報告させていただきます。

まず最初に子どもの生活実態調査でございます。

こちらは資料の見出しに1と書いてある概要版をごらんください。

一番上になります。

令和2年度は、調査の実施とその取りまとめまで行いまして、令和3年度におきましてクロス集計などの分析、課題抽出などを行ったところでございます。

まず、目的ですが先ほど申し上げました通り、一義的には基本方針を見直すための基礎資料とするためでございます。

ました。過去、直近ですと、5年前の平成28年に東京都によって、都内自治体のうち、日野市を含めた2区2市の4自治体が抽出されまして、同様の調査が行われたところでございます。

次に、調査概要についてでございます。

対象の学年ですけれども、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生相当の年齢の16から17歳で、前回との比較も行えるように、東京都調査を参考としたものになります。

各対象者数、アンケートの回収率等につきましては資料の表の通りですけれども、高校生の回収率が低いのが、学校等を介することなく、郵送で直接ご依頼申し上げて、回答を募ったものになりますので、それが原因と分析しております。

次に2ページ目へお進みください。

貧困の度合いと区分というところでございますけれども、こちらも前回調査に沿ってですね、生活困難度という三つの指標のもとで、困窮層、周辺層、一般層として区分をして、さらに困窮、周辺という二つの層を生活困難層として区分をいたしました。

次に、その下でございます。

4の生活困難層の割合でございます。前回調査との比較では、小中学生はやや低下、高校生はほぼ横ばいという結果となりました。こちらの方は、コロナの影響はこの時点ではまだ大きく出ていないというようなことがわかり、感染拡大前に景気が上向きだったことの影響だと一つは考えられるところでございます。ただ、コロナ禍で家計が急変した世帯は増えてるというのが、実際の状況であると思われるというところでございます。

次に3ページ目にお移りください。

結果から見えた主なものについてでございます。

コロナ禍の中で注目すべき点をピックアップしたのものになりますが、まず最上段、父親の就労状況についてでございます。

前回調査と比べまして、民間企業の正社員の率が下がっているというところで、まず着目すべきところでございます。また逆に、無回答というものが増えており、コロナ禍の影響も一因と考えられ、いずれにしても父親の正社員の率の減少というのは生活の不安定、またコロナ禍の影響を受けやすいという世帯が増加した状況であることに注意する必要がある状況でございます。

次に中段でございます。

必要な物品の所有状況ということでご質問をさせていただいた中で注意すべき点、欲しいが持っていないものという部分について、小中学生では自宅でインターネットに繋がるパソコンというふうにお答えになっている割合が前回調査より増加していることが、非常に目立つところでございます。

コロナ禍によって学校であるとか塾、オンライン授業などで必要に迫られている状況と考えられる結果でございました。

次にその下、30分以上体を動かさず遊びや習い事を、1週間でどれぐらいしますかというような問いに対しまして、小学生の困窮層ではほとんどしない、全くしないというものが3割を超えておりまして、これもコロナ禍による外出自粛などの影響によって、運動不足などの支障が出ておりまして、さらに困窮層ほどリスクが高いということに注意が必要となる結果でした。

続きまして4ページ目へお進みください。上段、家計の状況についてでございます。

コロナ禍における家計の状況です。

困窮層では食費、水道光熱費、日用品費がととも増えたというふうにお答えになっております。

家にいる時間が多くなったことが影響したと考えられる状況でして、生活の困難に比例して影響を強く感じているということに着目すべきところがございます。

中段は、各支援制度の利用希望についてです。家計の状況とも連動いたしますが、フードバンクであるとか、そ

ういった食の支援の利用意向が非常に高いということが目立つ状況でございます。

続きましてその下、6は1人親家庭の状況についてでございます。

困窮層、周辺層合わせました生活困難層と世帯構成の関係をみますと、生活困難層は母子家庭の割合が非常に高いということが如実にわかっているところでございます。

これは前回の調査と同様の傾向でございますが、母子家庭への支援の必要性が改めてわかる結果となりました。ページを移りまして、5ページ最上段、1人親になった原因についてでございます。こちらはご離婚が一番多くなっております。

中段、離婚後の状況についてですけれども、中学生高校生の困窮層では、養育費の取り決めは行っていない、取り決めはあるんだけども受け取っていないという事情で、割合が高くなっております。

引き続き養育費についての相談に繋がる支援の重要性がわかる結果となりました。

また最下段、母親の就労状況についてですけれども、こちらは非正規の形態が非常に多く、特にコロナ禍においては、影響を受けやすい就労形態の割合が高いという結果になりました。

次に6ページへお進みください。

上段の7、ヤングケアラーの状況についてでございます。

このヤングケアラーという課題につきましては令和3年に入って大きく浮き彫りになってきた課題の一つでございました。

調査実施時点においては、この課題に特化したご質問の設定はしていませんでしたが、その中でもアンケートの間15というところに、普段の活動の内容と度合いをご質問させていただいている項目の中に、ゲーム機での遊び、インターネットを見る、公園で遊ぶ、家事をするなどと並んで、小学生では兄弟などの世話、中学生、16歳から17歳では兄弟姉妹の世話や祖父母の介護という項目がございますが、このヤングケアラーという課題の傾向を拾える項目がここにごございましたので、この部分を集計した結果とさせていただきます。

結果についてですが、前回の平成28年度に比べて、全体としては兄弟や祖父母などの介護をするという割合は減ってはいるんですが、依然として一定数のケアラーの存在というのが如実に表れており、ここでも生活困難層ほどその割合が高いという結果でございます。

ケアラーの存在を絶対に見逃さず、今後、相談体制や関係機関連携の具体的な支援を進めていく必要がある結果でございました。

その下、8は虐待の状況でございます。

ここでは虐待などについて、保護者の方にお子さんを持つてからの経験としてアンケートをした項目のうち、虐待に繋がるような項目を抜粋した結果でございます。虐待のリスクでございますが、生活困難層ほどリスクが高い結果となっております。

以上実態調査の結果の概要についてでございます。

続きまして、貧困率の推計結果についてご報告させていただきます。

見出し5番の資料をご覧ください。資料3ページ目のブルーの色づけの表の方をご覧くださいと思います。結論から申し上げますと、表の中段、令和3年度（所得年：令和2年）における日野市の子どもの相対的な貧困率でございますが、前回の平成28年（所得年：平成27年）に行った調査での率を1.1ポイント下回り、7.4%が6.3%となり、人数にならしますと、13.5人に1人というものが15.8人に1人となり、2.3人減った結果となりました。

相対的貧困率についてですが、所得を低い順に並べた中央値の2分の1のラインを貧困基準として、それに満たない世帯に属する人の占める率としております。

表の上段、全年齢、また下段の1人親につきましても低下傾向にございました。

また貧困基準についてですが、ページを戻りまして2ページの下段の括弧2のところ、直近の2019年の厚生

労働省が行った国民生活基礎調査におけます各世帯の所得を各世帯人数の平方根で割った等価可処分世帯所得は年間127万円で、この間の景気の消費者物価の指数を調整し、年収が127万6000円としてこれを基準とさせていただいたところでございます。

なお、全体として、2015年から2018年、また2020年にかけての景気改善の流れによって貧困率は改善しているという、先ほども生活困難層という部分でお話をしたところと同様の流れなんですけど、非常に懸念される2020年のコロナ禍の影響については少なくとも本推計においては確認ができない状況でございましたが、この推計結果に関わらず、コロナで家計が急変した世帯、というものは確実に増えたと見られており、そういった実態に注意して、この結果を見ていく必要がある状況でございます。

以上が実態調査推計結果についてのご報告でございました。

ありがとうございました。

○大坪市長 ありがとうございました。

子どもたちが持続可能な社会を構築するための力を伸ばすことはもちろん大切ですが、その子どもたちの学びと育ちの環境そのものを、持続可能なものにすることも、また重要であります。

そういった意味でも、子どもの貧困を大きな課題ととらえ、その解消に向けて日野市全体で取り組んでまいらねばならないところかと思えます。そのために、子どもの貧困対策基本方針を定めて取り組んでまいりましたが、今回これを改定するというところで、実態調査を行って、その結果をご紹介いたしました。

最初の日野市のSDGsの取組みから、六小の松永校長先生のお話、六小の子どもたちの素晴らしい取組み発表、子どもの貧困に関する調査結果のお話がございました。ここまでで共有された情報を踏まえて、子どもたちが持続可能な社会を構築していくための力を伸ばすことのできる教育環境の実現に向けた、意見交換に進んでまいりたいと思います。ぜひ積極的にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○真野委員 様々な発表ありがとうございました。

冒頭に日野市の取組みのご紹介がありましたけれども、改めて私自身、日野市がSDGsの未来都市に選定されたということで、日野市民の1人として大変誇りに思っております。

この中に込められた思いとしては日野の先進的な取組みが評価された部分もあるでしょうし、地域から日本をリードして欲しいというこの期待が込められているのではないかなと感じています。

日野市がSDGsの未来都市計画で重視している三つのポイントのご紹介もありましたが、その1番目に「対話を重視したまち作りを推進」とあります。

具体的に様々な課題に対して、住民、企業、行政の連携で課題対処力が上がっている地域を目指すとうたっているわけなんですけど、この住民が目指すっていうところで、大人ももちろんなんですけど、次の社会の担い手である子どもたちも含めての連携で、大人子どもも含めた刺激を与えあう対話を、ぜひ推進していきたいというふうに改めて感じています。

そのために、さらにやっていけないといけないなと感じているのは、この日野市が推進している様々な先進的な取組みを、また日野市が目指すところをこの子どもたち目線で、子どもたちに届くような、言葉や表現で、共有をしていくことが、とても大事な感じています。

先ほど第六小学校の子どもたちの発表を聞いて、本当に身近な課題やさらにはSDGsの目標達成のために自分発で何ができるかということを考えて、実際に行動を起こしていってくれているということ、とても力強く感じた次第です。

また、食事の時間を延ばせば、食品ロスが減るんじゃないかという、なかなか私なんかそういう視点で考えたことがなかったですけど、なるほどな、そういう発想もあるんだなと、驚かされた思いがいたしました。

本当に子どもたちの発想や、発信力というところで、先ほども元気ももらいましたが、どこでも発信していきたいという力強い思いでこちらもよい刺激を受けましたし、本当に日野市も行政から住民の方に様々な願いや、一方的な依頼をせざるを得ない部分もあるんでしょうけれども、そういう面では子どもたちの言葉を借りての発信力や、子どもたち目線で発信をしていくことによって、住民の皆さん自身も腹落ちしたものになるのではないかなと思います。

とにかく大人は子どもの前では嘘をつけない。子どもの言うことは、大人も素直に従うと思います。

これがやっぱり私どもの思いかなと感じています。

そういう面で子どもたちの発信したことが、また日野市の様々な場面で生かされてくれば、さっきの子どもたちのパワーがさらに倍増していくのかなと思っておりますので、本当に子どもたちの力は学校の中だけじゃないなということを改めて感じました。

そういう面で様々な連携をとったり対話をということで、今、1人1台の Chromebook もいただいたところですので、今日もその活用があればこそなんですが、そういう活用を通して、様々な連携機会の場を作っていければというふうに感じた次第です。

ぜひよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○高木委員 この総合教育会議は、近年は年に1回ということになっているのですが、去年は特に議題第2号で新しい学びの創造というテーマでしたし、その前の令和元年度は多文化共生というテーマで話をしていたんですが、このSDGsに関して言えば、ずっと連綿と繋がってるテーマだなというふうに考えていますし、今回の持続可能な社会を構築する力を伸ばす教育環境を実現ということは、いろいろな説明や、児童の皆さんの発表などを聞く中で、今後さらに深掘りした論議に繋がっていけばということを感じています。

既に説明もあったと思うんですが、学習指導要領で2020年代、要はSDGs達成の、2030年までの期間の教育の目的というのは、持続可能な社会の作り手になることができるようにするということが、小学校、中学校、高等学校の、子どもに対する大きな教育の目的になっているわけです。

そういう意味では、このSDGsというのは私は学びの本質が大きく変わる転換点になり得るというふうに感じております。

例えば学校で言えば、これまでのような先生が教え込む、知識を伝えるというふうな教育では駄目な状況になってきていて、児童生徒が主体的に学びに向かうということが必要であり、その先生の役割も、やはり従来とは大きく変わっていく必要があるというふうに考えております。

例えば去年の総合教育会議の中での、新しい学びの創造でも申し上げたんですけども、やはり何のために勉強するのかという視点が、より児童生徒にとって、明確になっていくのかなということは強く感じています。

ともすれば従来は小中学校での勉強が、より上位の学校に行くための受験のための手段というふうな、あるいは成績をつけるためのという意味合いが強かったんですけども、そうではなくて、やっぱり未来の担い手としての育成をするという、学習の意味合いが変わったことによって、非常に児童生徒の心持ちも変わっていくんだろうということに期待しています。それに伴って、先ほど言いましたように先生の役割も大きく変える必要があるんじゃないかと思っています。

先ほど説明ありましたが、ESD、持続可能な開発のための教育は、子どもたちが、社会に参加するための教育であるので、実際に社会との交流の中で、学びを深めることが大切になると思います。

授業で学び計画したことについて、地域の中で実行、評価、改善という、いわゆる PDCA サイクルを回すことが必要になります。

先ほどの、六小の児童の皆さんも、学校内での発表にとどまらず、やはり対外的に訴えていきたい、伝えていきたいということでは、ともすれば、教育というのは学校の中での閉鎖的な枠組みの中でされてきたという傾向が

強かったわけなんです、SDGs関連の、あるいはそういったことに基づく教育は、社会や地域との繋がりが非常に大切になってくるんだというふうに考えております。

子どもたちの計画の実践の場として、やり方の工夫をしながら、地域の皆さんや行政、市議会議員ですとか企業等の幅広い市民の皆さんのご協力をお願いしたいというふうに考えてます。

先ほど日野市の取り組みの中でも、市の各種の施策等の説明もございましたし、また、来年の予算といたしますか、事業に向けて、教育委員会としても、新たな学校作りですとか、社会教育施設作りの推進計画の策定等も行なっているわけなんですけども、そこには例えば学校などであれば、学校を使う子どもたちの目線視線で、どうやってほしいかということだとか、彼らが大人になったときにそういった社会教育施設がどうあってほしいのかというふうな考え方、アイデアをうまく取り込めたら、より良いのかなという思いを、今回強くしている次第です。

先ほど真野委員からもありましたが、やはり子どもたちのあの発意ですとか発信力、やはり知恵、アイデアというのは非常に、大人の概念を超えた部分も一部あるのかなというふうにも感じますので、広く一市民という立場で、いろんな場面の、社会への活動への参画を求めるということが必要なということを感じております。

二つ目の子どもの貧困の問題についてなのですが、SDGsの目標のひとつに貧困をなくそうと、あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせるという目標もありますので、子どもの貧困についてもSDGsの中で取り組まれるわけで、いろいろ難しい問題もあるかというふうに思いますが、一方では、子ども自身は貧困と感じているのかどうかというところもあるかもしれませんが、これはちょっととらえ方は難しい部分もあるかもしれませんが、やはり子どもたちがその経済的な制約の中で課題問題を発見することがあるならば、子どもたち自身で何か問題解決ができる部分があるのか、論議、対応策を考える場も大事なのではないかというふうにも考えております。

先ほど説明いただいたアンケートも、非常に貴重なデータがいろいろありますし、特に自由記述欄の声というのは大事だなというふうにも感じました。

早速その勉強する場所等がないというふうな声に基づいて、対応いただいている部分等も聞いてはいますが、行政としても、記述欄に基づきながら、対応できるところについてぜひ検討をいただければということをお願いしておきたいと思っております。

何といたっても、貧困といいますか、経済的な理由で就学、学びの機会が得られなくなるというのは、今、大変深刻な問題ですし、負の連鎖になりかねない部分もありますので、何としてもそこは改善すべきと考えております。

○西田委員 日野市がSDGs未来都市に選定されてまもなく新型コロナウイルス感染症が広まりました。市民による活動が思うように進まなかったかもしれませんが、それでも中高校生を中心とした「日野ミラ」の活動が活発に行われていることや、プラスチックゴミを減らす取り組みも順調に進んでいること、また学校では、子どもたちのSDGs学習が進んでいることがよくわかりました。

先ほど第六小学校のSDGsの取り組みの報告をいただきましたが、自信を持って発表する子どもたちに、SDGsの学習で持続可能な社会の作り手になる芽生えがここにあるな、というような期待を感じました。

学校でSDGsを学習したお子さんたちを通して、家庭にもSDGsへの関心や、实际的な行動が広がっているということもよくわかりました。

先日、親子で道に落ちていたゴミを集めている姿を見たんですが、それも多分、SDGsの学習の成果かなと思っているところです。

ある子どもに家でSDGsについて取り組んでるか聞きましたら、SDGsの17の目標を張って、みんなで見てるんだよ、という話をしておりました。SDGsについて自分自身で努力していることがあるか聞きましたら、「みんなと仲良くする」ということばが返ってきました。

なるほどこれは子どもの発想だなと思えますし、いわゆる16番目の目標なのかもしれませんが、そういう

ふうにして子どもたちはSDG sを捉えてるんだと、大変期待感が高まったところです。

私自身は、令和2年の1月の市長さんと蟹江教授のSDG sについての新春対談を読んだことから始まって、「日野ミラ」や「プラスチック・スマート宣言」などのSDG sに関する日野市の取り組みについては、ほとんどが「広報ひの」から情報を得ています。毎回表紙の写真と関連したSDG sの目標が表紙に載っていて、関心は途切れないで、お陰様でいるところです。おそらく多くの市民の方も、広報からの情報を得ている方が多いのではないかという気がします。毎月配られてくるわけで、大変貴重な情報源ですので、市民や生徒さんたちからもいろいろアイデアを募って、引き続きSDG sに関心が持てる楽しいページを作っていただきたいと思っています。

また、学校での取り組みについてですが、先ほどからも教育委員の皆さまが話されてますように2020年から既に実施されている学習指導要領の前文で、「これからの学校では持続可能な社会の作り手となることができるようにする」ということが明記されました。

そして、日野市の第三次学校教育基本構想では、「すべてのいのちがよろこびあふれる未来をつくっていく力」を子どもたちに育んでほしいと考えました。そして、その力を育む環境を学校、家庭、地域そして子どもたちみんなで作ろうとしているところで、このSDG sの考えと合致するものだと思っています。

先ほど部長さんから報告がありましたように、日野市の小中学校では、令和4年度の教育課程の編成の際に、「SDG sカレンダー」を作成することとなっており、本格的に各学校でSDG sの学習が始まると確信しています。子どもたちがどのようにSDG sの学習に取組み、どんなことを願ってどんな提案をしてくれるのかとても楽しみにしているところです。また、基本構想で、学び方や、先生や地域の役割について思い切った提案をしました。学校現場ではいろいろ努力されている中で難しいところもあるかと思っていますが、このSDG s学習を進めることによって新しい学び方が開かれていって、今までなかなか抜け出せなかった明治以来の学校の姿が大きく変わっていくに違いないと思っています。

いずれは学級編成の在り方ですとか、教室の配置や形、使い方、机や椅子も大きく変わっていくだろうと思っています。とりあえずは、図書室が情報センターとしての役割を果たすために、例えば最新の資料を次々と入れていかなければなりません。また、人の配置も必要です。そのあたりの市のご協力をお願いしたいと思っています。続いて、貧困の問題ですけれども、統計、記述からコロナ禍での家庭の様子や困窮の状況などを、また改めてよく理解することができましたし、やはり、母子家庭には手厚くしていただきたいと思いました。

それから、たくさんお子さんがいるご家庭にも、お子さんが多いことで家計が苦しくなることがないような支援をしていただきたいなと思いました。

朝食を取っていない小中学生が困窮層に多いというのは改めて感じまして、あの午前中の活発な活動を朝食を食べずに果たしてやっていけるのかというところを、家庭と学校が一緒になって考えていかなければならない問題だと思いました。

コロナ禍での家庭の様子がどうなのか、学校の先生にも聞いてきましたが、実際に生の言葉を聞くことによって、課題がたくさん出てきていることがよくわかりましたし、報告を受けて、改めて支援の必要性を強く感じました。最後に、いつも思うのですが、大人は世界がどんどん悪くなっていくような話をします。マイナスの面ばかりをとらえているように思われて仕方がないです。そういったことを聞いた子どもたちや若者たちはどう思うか、生きるエネルギーや未来への希望が湧いてくるのか気になっています。

確かに現在、気候変動や核など深刻な課題はたくさんありますし、統計的には昔より少なくなっているとはいえ、世界では飢えや争いに苦しむ人はたくさんいます。しかし、昔より良くなっていることもたくさんあります。戦争やその後の混乱期を生きてきた私にとっては、今のような生活は想像もできなかったことです。長い間人々を苦しめてきた病や飢え、争いに対しては、人々が長い時間をかけて、知恵や努力やより良い明日を願う気持ちでひとつひとつ克服して今の世の中を作ったことを今の子どもには知ってもらいたいですし、そういったことへの

感謝の気持ちを持ってもらいたいし、大人は責任をもって伝えていかなければならないと思います。そのうえで、これからどうしていったらいいか考えていきたいと思います。

例えば、現代の課題として必ず出てくるのが少子化、高齢化の問題ですが、長寿は人類の夢だったはずで、現在92歳の方が生まれた1930年の男性の平均寿命は46歳、女性は49歳でした。そうすると、親を亡くす子どもや子どもを亡くす親がいかにその当時は多かったかということが想像できます。それから20年以上たって1955年を見ますと男性が63.6歳で女性が67.7歳という平均寿命となっています。そして2020年の平均寿命は男性が81.6歳、女性が87.7歳ということで、私も安心したところですが、長寿の時代を迎えたことは喜ばなければいけないと思います。戦争がない時代がこんなに続いていることもとても幸せなことです。こうした幸せが続くように、もっともっと多くの人が幸せになれるように、それを願うことを前提にしてSDGsの学習やSDGsの取組みを進めていきたいと思っています。

○大坪市長 ありがとうございます。それぞれ素晴らしいお話をいただいたと思います。

やはり子どもたちに届く表現、目線が大切ですね。子どもの前で大人は嘘をつけないというお話もありましたが、考えてみると2030年というのは我々でなく例えば先ほどの六小の6年生の子どもたちにとってどんな素晴らしい姿になっているのかが一番の問題であって、そういった意味では、ある意味で最も当事者意識を持った方々が、子どもではあるが発言しているということで、それが大切だということです。だからこそ、子ども目線の発信、大人だけでなく子どもも含めた住民という発想を持たなければいけないと強く思いました。

そして、やはり子どもたちの発信力は素晴らしいですね。松永校長先生がおっしゃっていたように、学校の中から外へ向かって、ということで、先ほどの質問の中で、テレビやYouTubeに出たい、あるいは手紙を出したいということで、我々は初めから誰も聞いてくれないだろうということであきらめてしまうようなことでも、彼らは純粋に気づきや学びからあいうふうに行動をするというのが、やはり素晴らしいなということを思いましたし、高木委員もおっしゃっていたように、まさにSDGsに取り組むことが学びの大きな転換点になってることを彷彿しました。ですから当然先生の関わり方も変わってきますし、一方的な教えでなく児童生徒主体の学びへと変わって行って、何のための学びなのかというふうに変ってくる。そして地域で実践して行って、おそらく壁にぶつかり、そこでまたどうすればいいのかという、PDCAというか、そういう話になってくると感じました。

また、西田先生がおっしゃったように、子どもの感想が、「みんなで仲良く」ということで、なかなか我々は恥ずかしくて言えないようなことかもしれませんが、子どもたちが言うとなんか響きました。

第三次学校教育基本構想というのはそういうことを引き出すということが目標となっていて、まさにSDGsと一緒にいると思いましたし、そのうえで、明治以来の学校の在り方も変わっていく、そんな転換点となっているということも感じました。

ただ、最後に西田委員もおっしゃったように、やはりどうしても大人はマイナスから始めてしまいますし、今、地球はとんでもないことになっている、どうしよう、といった話ばかりを強調することで子どもたちや若者が意欲を持ってやっていけるのかというお話でしたけれども、そういった面を強調しながらも、長寿の達成や、日本では戦争が長く起きてないといったところを併せて、今の到達点を子どもたちにも分かってもらって、そこから始めていくことも大切であると思いました。

いろいろとご要望も頂きまして、図書館であるとか人の配置の問題というところがありましたが、そのためには物質的、金銭的な面での検討も必要ですので、理念的な話だけでない部分についてもご意見をいただきありがとうございます。

私はSDGsについて人の前でお話したことがありまして、こどもSDGsという本があってかなり重版もされ

ているようなのですが、すべて子どもの目線で、子どもに響くように書かれており素晴らしいのですが、確かにそうあるべきで、難しい言葉で17のゴールについて書かれていても仕方ありません。主役は子どもであって、我々がいくら理解しても、30年もたてば当然だいぶ高齢になっているわけですから。

高木委員が先ほどおっしゃっておられました。令和2年度の総合教育会議では新しい学びの創造について取り扱った。また今回は持続可能性に関する内容でしたが、これらが総合教育大綱の見直しに反映されていくべきなのかなと思いました。新しい総合教育大綱は、全部変えるというものではございませんが、改訂の時期を迎えておりますので、今日の皆様のご意見を伺いまして、おそらくそういう方向、SDGsの視点も取り入れて、教育の新たな転換点ということでの教育大綱の見直しにつながっていくのかなと思いました。そういった方向で、今後も皆様にご意見を頂きながら新しい教育大綱を作っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。他にご意見などはありますでしょうか。

○真野委員 子どもたちの生活実態調査に触れなかったのですが、こういったアンケート調査、統計的な分析をもとに対策を考えるということは大事な内容だと思います。しかし同時に、アンケート調査ではわからない部分、アンケートにはどうしても選択肢があって、少し考えとは違うけどこれかな、というものを選んでしまう部分もあるのかなと思います。またこの自由記述に書かれている、もうちょっと先生にしっかりしてほしいというような、端的に言うともうそういう意味合いの言葉もあつたりして、これは目の前ではなかなか言えないだろうと思うのですが、アンケートで自由記述だからこそ書けた部分はあると思います。しかし、アンケートでないという思いが出てこないのだとすれば少し寂しいなということを感じました。やはり子どもたちが素直に自分の言葉を話せるような場なのか、あるいは人なのか、そういう機会を作っていくのも大事だなと思いました。

○大坪市長 ありがとうございます。実はこのアンケートは市議会でも取り上げまして、先生に対する率直な意見が寄せられていて、議会答弁を担当した教育部参事もなかなか苦しいところがあったようなのですが、教育委員会に関わる方々にとってはこのストレートな意見が衝撃的だったような気がしています。それが自由記述というものですし、真野委員がおっしゃったようにアンケートだけでなく生の声で、いろいろな形でもらえるような工夫も必要であろうと思います。子どもたちの主体性を重んじるのであれば、やはり率直な意見を言ってもらえるような機会を作ることもやっていければと思います。

○大坪市長 他にご意見・ご質問はございませんか。

多くの貴重なご意見をありがとうございました。引き続き、市長部局と教育委員会が協力しながら取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

それでは最後に次第の3. その他について、事務局より説明をお願いします。

○中村企画経営課長 それでは、始めに教育大綱の見直しについてご説明いたします。

現在、日野市のあるべき将来像とその実現のための方策を示す「2030ビジョン」の検討を進めておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、この「2030ビジョン」策定の時期が令和4年度へ延伸しております。

平成27年度に策定された教育大綱についても見直しの時期となっておりますが、この「2030ビジョン」と関わり合わせながら検討を進める必要があることから、令和4年度を目標に進めていく予定です。

続いて、今後の総合教育会議につきまして、ご説明申し上げます。

この後の総合教育会議につきましては、本日の会議を基本として、緊急な案件が発生する等、議論すべき事項が

あった場合、その都度ご相談の上で開催をさせて頂きたいと考えております。事務局からは以上です。

○大坪市長 ただいまの事務局からの説明について、または、その他全体を通してご質問・ご意見がございましたらお願いします。

○大坪市長 なければ、今後については事務局からの説明通り進めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

本日予定いたしました議題は全て終了いたしました。

これをもって令和3年度第1回日野市総合教育会議を閉会いたします。